

議会モニター制度と議会改革

芽室町議会改革諮問会議会長

蘆田千秋

人口約一万九千人の芽室町。その町民の一人で、ごく普通のおばちゃんである私が議会を意識するようになったのは、二〇一二年四月である。「分かりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」を

目指して改革を！と動き出していた議会の改革・活性化策の一つとして議会モニター制度が始まったからだ。モニターをやりませんか。というお話をいただき、議会とは何をしている所か？この縁をきっかけに知ろうとするのもよいのではないか。私のように議会を知らない人は沢山いてその代表として町民目線で気持ちを伝えるのもよいのではないかと思っただけだ。その翌年には議会改革諮問会議が設置され、二年の任期で諮問委員をすることになった。現在は第二期の諮問委員で二年目に入った。この四年と二カ月、私からみた議会改革への感想を書こうと思う。

まず「住民に開かれ、分かりやすく、行動する議会」の意味が分からなかった。それは議会のやっている仕事自体がよく分かっていたからだった。議会改革が進めばなぜ町がよくなるのか。議員の皆さんは選挙の時にそれぞれ当選したらこうしたい。とやりたい仕事、町の未来像を話されていた。

でも実際はそれを実行する以外に幅広く大量に仕事があり、ゴールがない。それはモニターになり、議会を少し垣間見て分かったことだ。

分かりやすい議会というのは、そういった議会のやっていることを理解してもらおう事。これはそう簡単な事ではないと思っただ。議会の定数を知らない町民は沢山いるのではないか。私が知る前から議会改革は進められていたと思うが、私の視点でのスタートは議会モニター、議会サポーターの設置であった。議会サポーターの先生方から他の事例や助言をいただくことは、改革を客観的に見るためにも、改革の優先順位を考えるにもよいことだと思う。迷った時に質問できる強力なサポーターの存在は重要だ。

議会モニター制度は議会を傍聴し、議員と意見交換を行い、運営に関して提言するために設置された。ここで出た意見をどれだけ汲み取れるかが町民と議会の距離が縮まるか離れたままかのポイントだと感じた。議会モニター第一期の私たちは、いつも用語や文章が分かりにくい。そればかり言っていた。二元代表制？議決権？議会基本条例？議会では普通に使用する言葉でも、知らない町民は

それだけで難しいものだと思っただけ拒否反応が起きてしまう。だから議会もなかなか近いものとはならないのだ。日常生活では使わない言葉だね。だったらどうやって説明しようか。と意識するだけでも違う。

私もモニターとして意見を述べるために、議会の傍聴にできるだけ足を運び、議員研修会に参加し、モニター同士で議論を重ねた。知れば知るほど、議会は重要な責任があることが分かってきた。重要な責任があるからこそ、議会が活性化され議員の資質が向上し、執行機関と切磋琢磨すれば、さらにより町政となり町民に返ってくるのではないかと思う。議会に対して私は随分生意気な意見を言っただかと思う。でも、私たちモニターが議会に足を運ぶ度に、いつも議会の皆さんは感謝の言葉をかけてくれて、笑顔で迎えてくれた。私にとっではモニターをしたことで、議会は前より身近で開かれて分かりやすくなった。私の意識が変わったのだ。議会改革というのは町民の意識をどう変えていくか、ということも重要なことなのではないかと思っただ。

開かれたという部分では、議会だよりを毎年発行、インターネットで全会議中継、SNSを利用して様々な年代に対して開こうとしている。議会基本条例もつくっただけでは意味がない。利用して活かさなければ、様々な活性化案も絵に描いた餅となるのではないか。これらの取組みを自分たちのものとし、利用し、活かすことで改革が進んでいくと思う。これかも一町民として意見を伝えたいと思う。

へあしだ ちあき